

## 「一杯のスプーン」によるJIFFカブール病院への緊急支援開始

日本ユネスコ協会連盟は、2002年11月よりアフガニスタンの首都カブールに事務所を開設し、世界寺子屋運動による教育復興やバーミヤンでの文化復興に力を注いでいますが、このたび、\*JIFFカブール病院への緊急支援を開始いたしました。

\*JIFF (Japan International Friendship and Welfare Foundation) カブール病院：

貧しい家庭の子どもとその母親を対象に無料の医療奉仕活動を行い、毎日多くの子ども達の命を救っている。設立は2002年9月。現在、常駐医師は3人。昨年末、米国などからの子どもの栄養プログラムへの支援が打ち切れ、診療継続の危機に陥っていた。



連日、夜明け前の4時過ぎから、極寒の中、病院の前には診察整理券を求めて病気の子どもを抱えた母親たちが並ぶ。3人の医師は病院に来るすべての患者を診療したい気持ちであるが、資金難により、十分な医薬品やこれまで無料配布していた病院特製の食料パック(ミルク1リットル、ビスケット3パック、砂糖1キログラム、米3キログラム)が購入できず、診療できる患者数も80~100人程度に限られていた。医師たちは病気の子どもを抱えて途方にくれる母親たちに何もできないジレンマで憔悴しきっていた。

昨年の秋以降、パキスタンから約50万人とも言われる帰還難民がアフガニスタンに戻ったが、住居や仕事がなく、親戚の家を頼るか市内の空き地に難民状態で暮らすしかない。1月には氷点下25度になることもあり、多くの人びとが凍える寒さの中、壊れた建物やテントでの生活を続けている。特に子どもたちは栄養失調で体力を失い、病気で苦しんでいる。



そこで当協会連盟では、皆様からの「一杯のスプーン」募金から、去る2月1日、病院が医薬品(一人当たり1回約100円)と上記食料パックを配布できるよう、まず、緊急支援(3ヶ月分US\$20196)を行った。

医師たちからは、早くも「一杯のスプーン支援」を受けてからは、十分な医薬品が整い、乳幼児に対する栄養補給も可能となり、今では1日に200~250人の子ども達を無料診療できるようになった。また栄養失調の子どもたちには、食料パックも配布している。」との報告が届いた。

今後も当協会連盟では、継続支援を行っていきます。皆様のご協力をお願いします。

「一杯のスプーン」に関する詳細はこちら

<http://www.unesco.jp/contents/tera/activity.html#c1>